

心臓の検査

心筋梗塞や狭心症で代表される虚血性心疾患はわが国の三大死因の一つに挙げられています。この病気は心臓の筋肉を養っている冠動脈の内腔が動脈硬化等で狭くなり血液により運ばれる栄養や酸素が心臓の筋肉に供給されにくくなっておこります。

当院では心筋の血流状態をみるため運動と薬剤の併用負荷シンチ、運動負荷シンチ及び薬剤負荷シンチを1日5件行っています。この検査はまず心電図をとりながら自転車のペダルをこぎ(または薬剤にて)心筋に負荷をかけテクネチウムという放射性医薬品を注入します。この状態の心筋をデータ収集しコンピューターで解析します。そして再びテクネチウムを注入し、4時間後に安静状態の心筋をデータ収集し同様にコンピューターで解析し運動負荷(又は薬剤負荷)の心筋と比較します。この2つのデータからどこの部位の心筋が虚血に陥るかがわかり、どの冠動脈領域が狭窄するのか推定出来ます。また、最新のソフトウェアを用いて心機能等の情報も提供しています。

心筋 SPECT 検査結果報告書

